



佐藤 未雲

スペースチャイナ代表取締役

紅葉の便りが届く季節になった。紅葉は豊かな実りを連想させ、真っ赤に染まった山々は自然からのご褒美のように思える。例年この季節になると旅心を誘われ、気もそぞろになってしまふのは私だけだろうか。

5年前の秋、私はスペースチャイナの受講生の方々と中国九寨溝の旅に出た。母を天国に送ったばかりのころだった。母は戦前家族と共に旧満州に渡り、戦後中国に取り残された残留邦人の一人であった。5歳から52歳までを中国で生きた母が故郷沖縄に帰れたのは17年前のことである。それから12年、私たちを育ててくれた中国の大地と一緒に旅するという約束を果たさなまま、母は天国に旅立ってしまったのだ。

琉球新報 2009年10月28日
九塞溝へ出発の日の朝、私は白い小さな紙包みをバッグにそっとしのばせた。それは家族にも内緒で分けておいた母の遺灰であった。私は母と共に世界遺産九塞溝の美しい景色を堪能

南風

した。こんな形ではあるが約束を果たすことができたのである。

九寨溝は、九つのチベット人の村と谷からなっていることから、その名が付いたと言う。観光地化されているのはその内の二つの谷でそこには100以上の湖沼群があり、天気や季節によって水の色が変わることから水の都とも呼ばれる。4月下旬から10月下旬ごろまでが観光シーズンで、特に10月の紅葉の時期は山々が燃えるような紅葉に覆われ、山の赤と湖の青のコントラストが美しいと言われている。

九寨溝の紅葉

私たちが行ったころ紅葉にはまだ早かったが、母と一緒に旅ができたことは何よりであった。私は母の魂が九寨溝の澄んだ大気の中に帰っていくのを感じた。今ごろ九寨溝は紅葉の山々を映して神秘的な姿を見せていることだろう。四川大地震のつめ跡が残っていないことを祈りながら思いをはせている。